

第1章

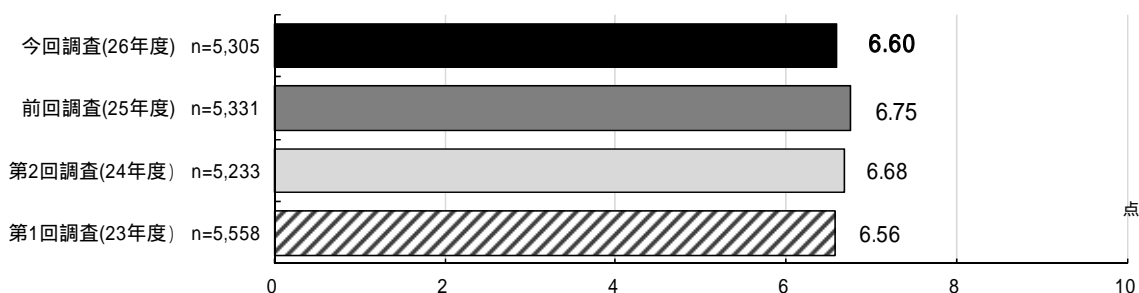
県民の幸福感の現状 ～属性別にみた姿～

第1節 幸福度の県全体の状況

県民の皆さんが日ごろ感じている幸福度（以下、「幸福度」と記載）について10点満点で質問したところ、今回調査（平成26年度実施）の平均値は6.60点で、第1回調査より0.04点高くなっていますが、前回調査より0.15点、第2回調査より0.08点それぞれ低くなっています。（図表1-1-1、図表1-1-2）

また、調査方法等が同一ではないことから単純な比較はできませんが、国の調査結果を見ると、県民全体の幸福度は国民全体の幸福度よりも高い水準にあると見られます（図表1-1-3）

図表1-1-1 幸福度の平均値（前回調査、第2回調査及び第1回調査との比較）



- （備考）
1. 今回調査と前回調査との差は統計的に有意（危険率5%未満）
 2. 今回調査及び前回調査と第2回調査との差は、いずれも統計的に有意（危険率5%未満）
 3. 前回調査と第1回調査との差は統計的に有意（危険率5%未満）

図表1-1-2 みえ県民意識調査の調査概要（第1回～第4回）

	今回調査 (第4回みえ県民意識調査)	前回調査 (第3回みえ県民意識調査)	第2回調査 (第2回みえ県民意識調査)	第1回調査 (第1回みえ県民意識調査)
調査時期	平成27年1月～2月	平成26年1月～2月	平成25年1月～2月	平成24年1月～2月
標本数	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人
有効回答(率)	5,444 (54.4%)	5,456 (54.6%)	5,432 (54.3%)	5,710 (57.1%)
調査対象	20歳以上	20歳以上	20歳以上	20歳以上
実施方法	郵送法	郵送法	郵送法	郵送法

図表1-1-3 参考とした国の調査

<p>国民生活選好度調査（実施主体：内閣府）</p> <p>質問「現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。」（みえ県民意識調査と同一）</p> <p>調査概要・結果（平成21年度～平成23年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度国民生活選好度調査：幸福度の平均値 6.41点 （24年3月実施 調査対象：15歳～79歳の男女 有効回答数(率)：2,802(70.1%) 訪問留置法） ・平成22年度国民生活選好度調査：幸福度の平均値 6.46点 （23年3月実施 調査対象：15歳～79歳の男女 有効回答数(率)：3,578(71.6%) 訪問留置法） ・平成21年度国民生活選好度調査：幸福度の平均値 6.47点 （22年3月実施 調査対象：15歳～79歳の男女 有効回答数(率)：2,900(72.5%) 訪問留置法）

第2節 幸福度の一属性クロス分析

幸福度を1つの属性(ここでは、地域、性、年齢、職業、配偶関係、世帯類型、世帯収入)によるクロス分析を行いました。個々人の幸福度は様々であり、多くの要素と関係性があると考えられることから、県民の幸福度の特徴や傾向をより詳細に把握するためには、次節に記載する2以上の属性によるクロス集計の結果も合わせて見ていく必要があります。

(参考) 1 ()内の数字は前回調査との差(点)です。< >内の数字は第1回調査との差(点)です。なお、統計的に有意な差がある場合には、下線を付けています。

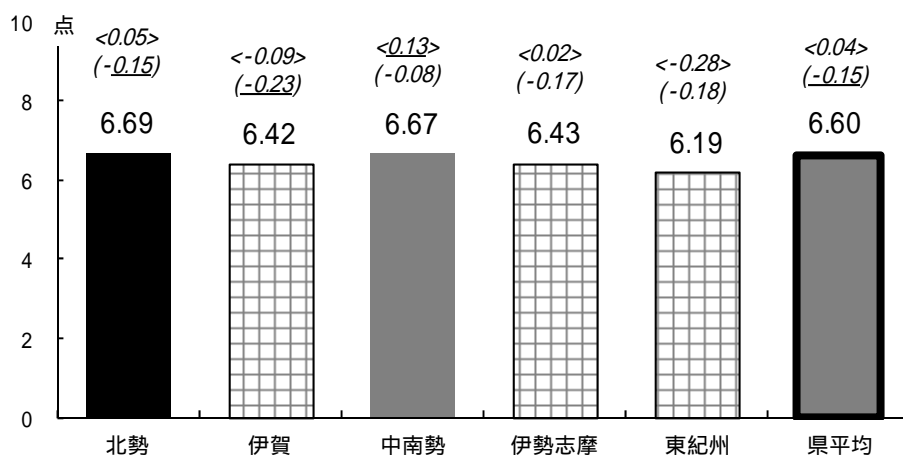
- 2 棒グラフについて
- 黒色: 幸福度の平均値が県平均より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
 - ▤ 格子: 幸福度の平均値が県平均より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
 - 灰色: 幸福度の平均値が県平均と比べ、統計的に有意な差が認められない属性項目

1 地域別

県平均と比べ、北勢地域の幸福度が高く、伊賀地域、伊勢志摩地域、東紀州地域の幸福度が低くなっています。

第1回調査と比べ、中南勢地域の幸福度が高くなっています。前回調査と比べ、北勢地域、伊賀地域の幸福度が低くなっています(図表1-2-1)。

図表1-2-1 幸福度(地域別)

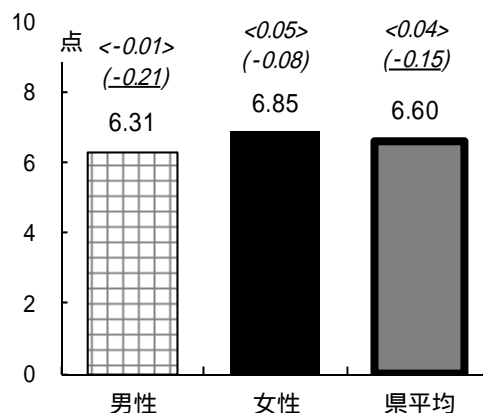


2 性別

第1回調査、前回調査と同様に、女性は男性より幸福度が高くなっています。

前回調査と比べ、男性の幸福度が低くなっています。第1回調査との比較では統計的に有意な差は認められません(図表1-2-2)。

図表1-2-2 幸福度(性別)

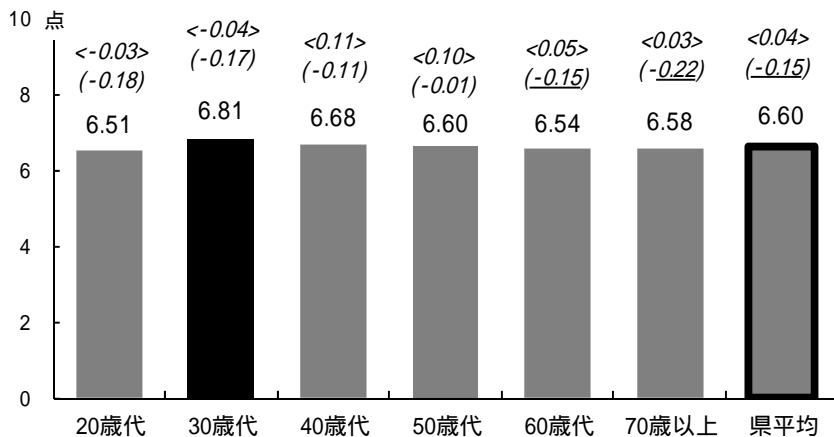


3 年齢別

県平均より、30歳代の幸福度が高くなっています。

前回調査と比べ、60歳代、70歳以上の幸福度が低くなっています。第1回調査との比較では統計的に有意な差は認められません(図表1-2-3)。

図表1-2-3 幸福度(年齢(10歳階級)別)

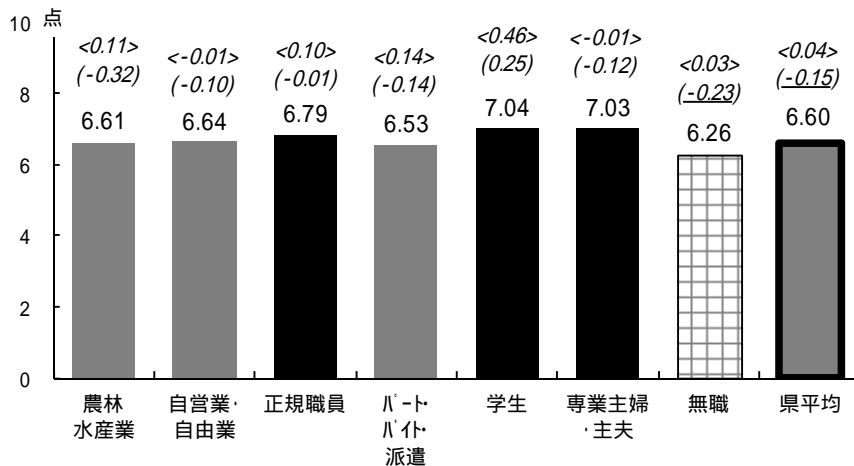


4 職業別

県平均より、正規職員、学生、専業主婦・主夫の幸福度が高く、無職の幸福度が低くなっています。

前回調査と比べ、無職の幸福度が低くなっています。第1回調査との比較では統計的に有意な差は認められません(図表1-2-4)。

図表1-2-4 幸福度(職業別)



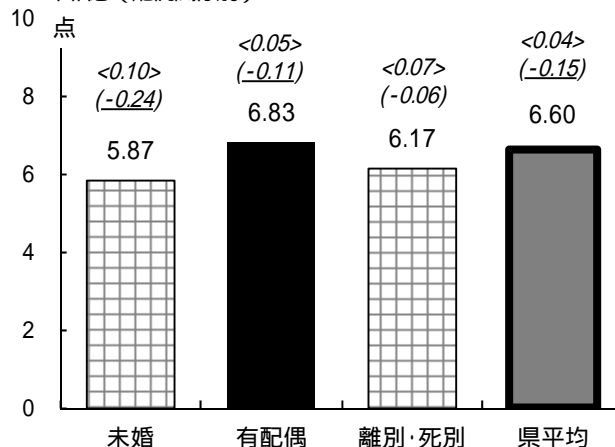
5 配偶関係別

第1回調査、前回調査と同様に、県平均より、有配偶は幸福度が高く、未婚、離別・死別は幸福度が低くなっています。

前回調査と比べ、未婚、有配偶の幸福度が低くなっています。第1回調査との比較では統計的に有意な差は認められません(図表1-2-5)。(備考)

今回調査では、離別と死別を区分して質問していますが、過去との比較のため、離別・死別を合わせて集計しています。

図表1-2-5 幸福度(配偶関係別)



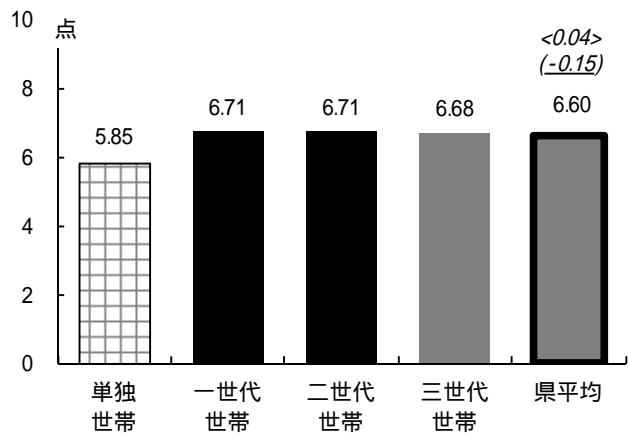
6 世帯類型別

県平均より、一世代世帯と二世帯世帯の幸福度が高く、単独世帯の幸福度が低くなっています。(図表 1-2-6)

(備考)

前回調査及び第1回調査と世帯類型に関する設問が同一でないため、前回調査及び第1回調査との比較はしていません。

図表 1-2-6 幸福度 (世帯類型別)

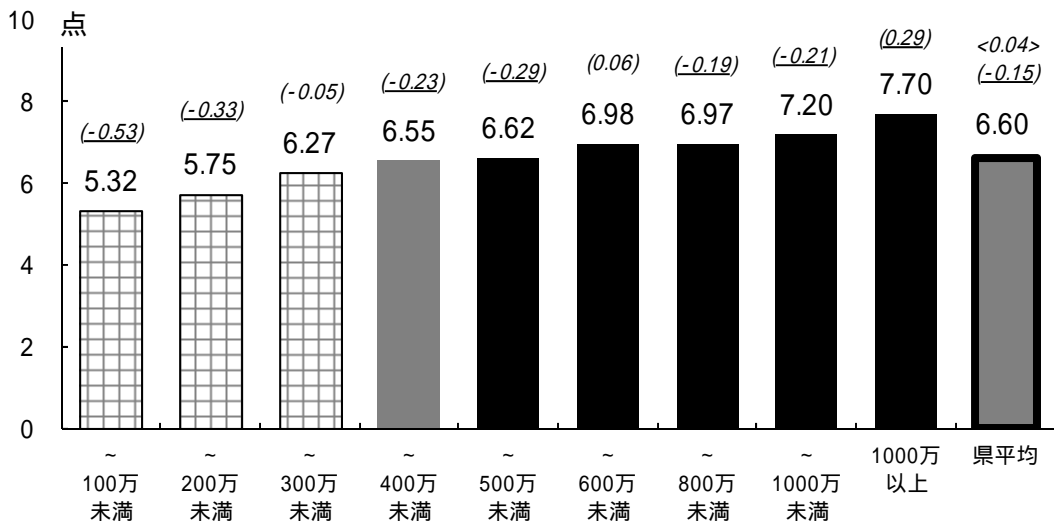


7 世帯の年間収入別

県平均と比べ、300万円未満の層の幸福度が低く、400万円以上の層の幸福度が高くなっています。

前回調査と比べ、200万円未満の層、300万円以上500万円未満の層、600万円以上1,000万円未満の層の幸福度が低く、1,000万円以上の幸福度が高くなっています(図表 1-2-7)。

図表 1-2-7 幸福度 (世帯の年間収入別)



(備考)

第1回調査では異なる区分での世帯収入を質問しているため、第1回調査との比較はしていません。

【参考】連続して幸福度が高い(低い)属性項目

第1回調査から第4回調査まで、4回連続で、県平均に比べ、幸福度が高いあるいは低い属性項目(統計的に有意な差がある場合)は次のとおりです。

(幸福度が高い属性) 女性、30歳代、専業主婦・主夫、有配偶、一世代世帯

(幸福度が低い属性) 伊勢志摩地域、男性、無職、未婚、離別・死別、単独世帯

第3節 幸福度の詳細クロス分析

個々人の幸福度は様々であり、多くの要素と関係性があると考えられます。そこで、県民の幸福度の特徴や傾向をより詳細に把握するため、この節では、以下の2属性以上のクロス分析を行いました。

- 1 地域・性・年齢別に見た幸福度
- 2 配偶関係・性・年齢別に見た幸福度
- 3 性・職業別に見た幸福度

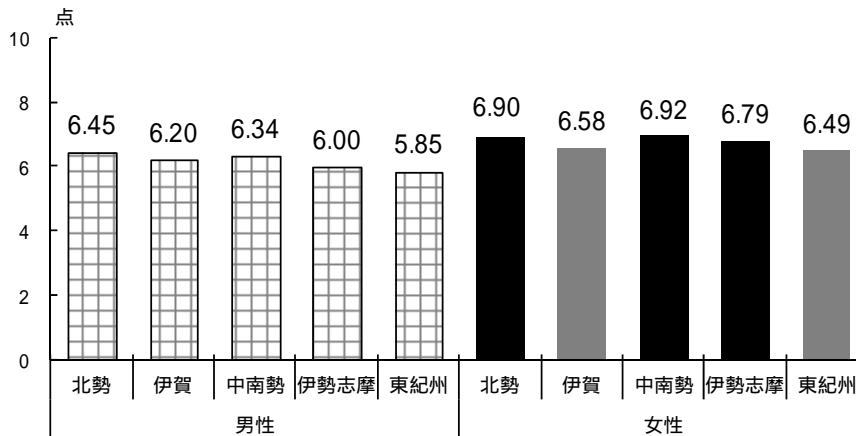
なお、すべての属性（性、年齢、職業、配偶関係、世帯類型、世帯年収、地域）を2つ組み合わせたクロス分析については、42通り（重複分を除くと21通り）ありますが、集計データ（有意性検定含む）、前回調査及び第1回調査との推移データを別冊のデータ集に掲載しています。

1 地域・性・年齢別に見た幸福度の特徴

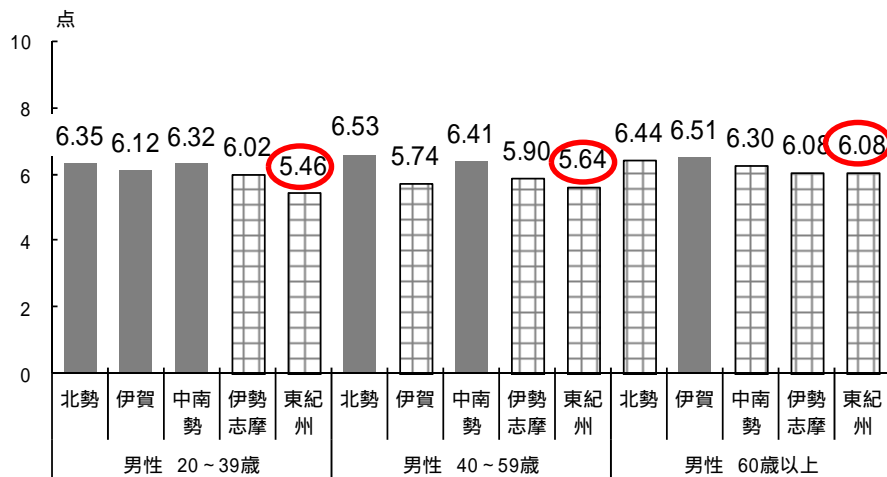
地域・性別に幸福度を見ると、全ての地域で女性の幸福度が男性よりも高くなっています（図表1-3-1）

また、地域・性・年齢（20歳階級）別に幸福度を見ると、東紀州地域では、男性の全ての年齢区分と60歳以上の女性の幸福度が低くなっています（図表1-3-2、1-3-3）

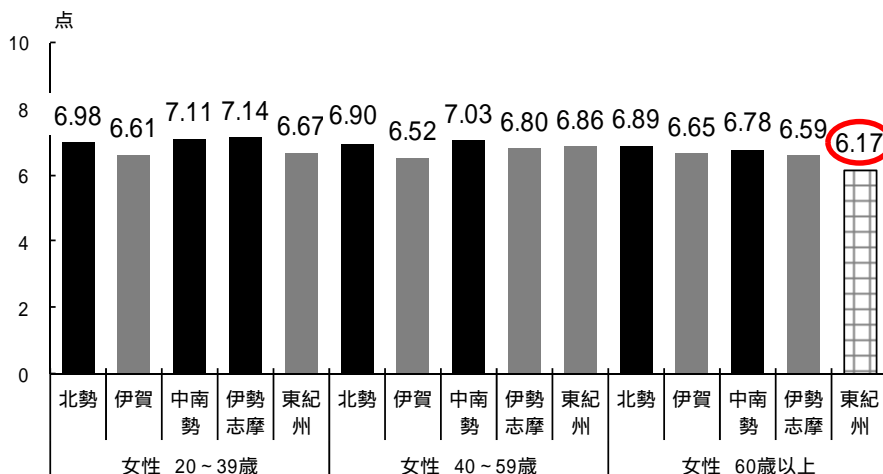
図表1-3-1 幸福度（地域・性別）



図表1-3-2 幸福度（地域・年齢（20歳階級）別）（男性）



図表1-3-3 幸福度（地域・年齢（20歳階級）別）（女性）



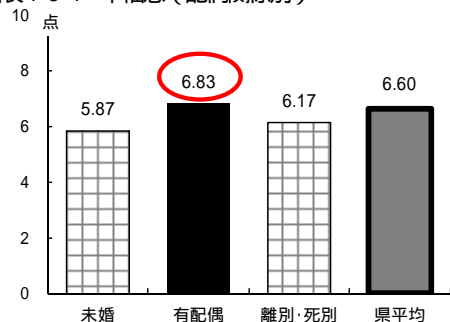
2 配偶関係・性・年齢別に見た幸福度の特徴

配偶関係別に幸福度を見ると、有配偶の幸福度が高く、未婚と離別・死別の幸福度が低くなっています（図表 1-3-4）。さらに、離別と死別を分けて配偶関係別の幸福度を見ると、離別の幸福度が低くなっています（図表 1-3-5）

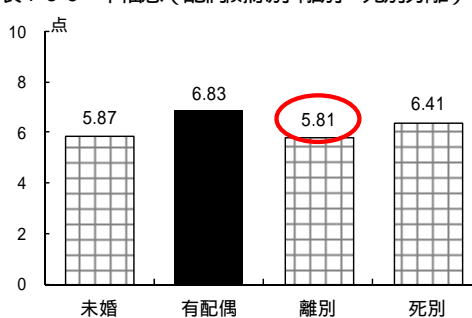
性・配偶関係別に幸福度を見ると、女性の有配偶の幸福度が高く、男性の離別の幸福度が低くなっています（図表 1-3-6）

性・配偶関係に年齢別を加えて幸福度を見ると、男性は20～39歳の有配偶で幸福度が高く、女性の有配偶は全ての年齢区分で幸福度が高くなっています。また、男性の未婚、離別、死別はいずれの年齢区分でも幸福度が低くなっています（図表 1-3-7）

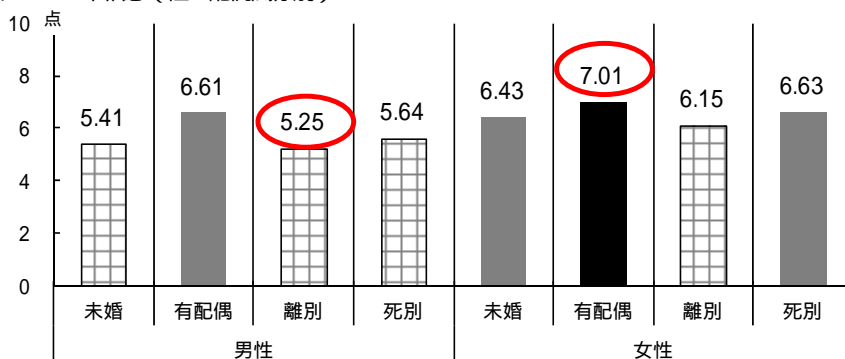
図表 1-3-4 幸福度（配偶関係別）



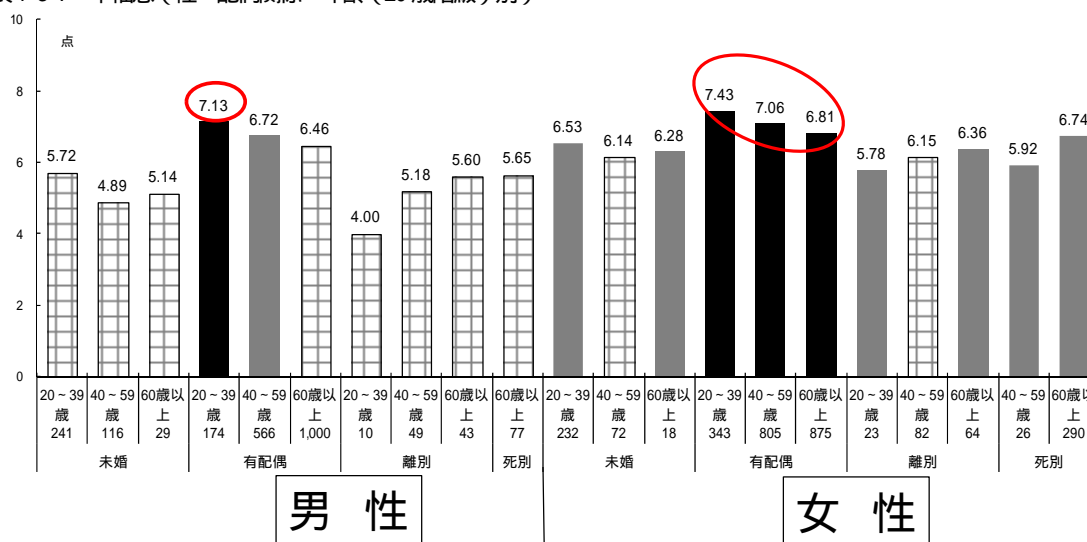
図表 1-3-5 幸福度（配偶関係別-離別・死別分離）



図表 1-3-6 幸福度（性・配偶関係別）



図表 1-3-7 幸福度（性・配偶関係・年齢（20歳階級）別）



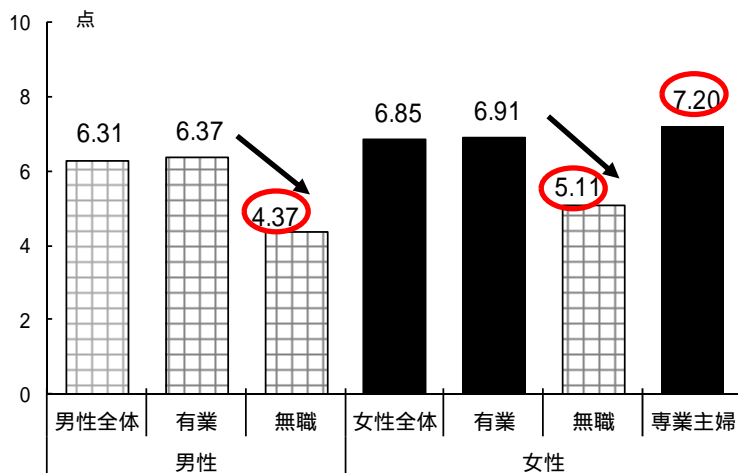
- (参考) 1 属性欄の数字はサンプル数。
 2 男女20～39歳の死別、男性40～59歳の死別については、サンプル数が少ないため、省略している。

3 性・職業別に見た幸福度の特徴

20～59歳を対象に、幸福度を性・職業の有無別に見ると、男女とも無職の幸福度が低くなっています。また、専業主婦の幸福度が7.20点で最も高くなっています(図表1-3-8)

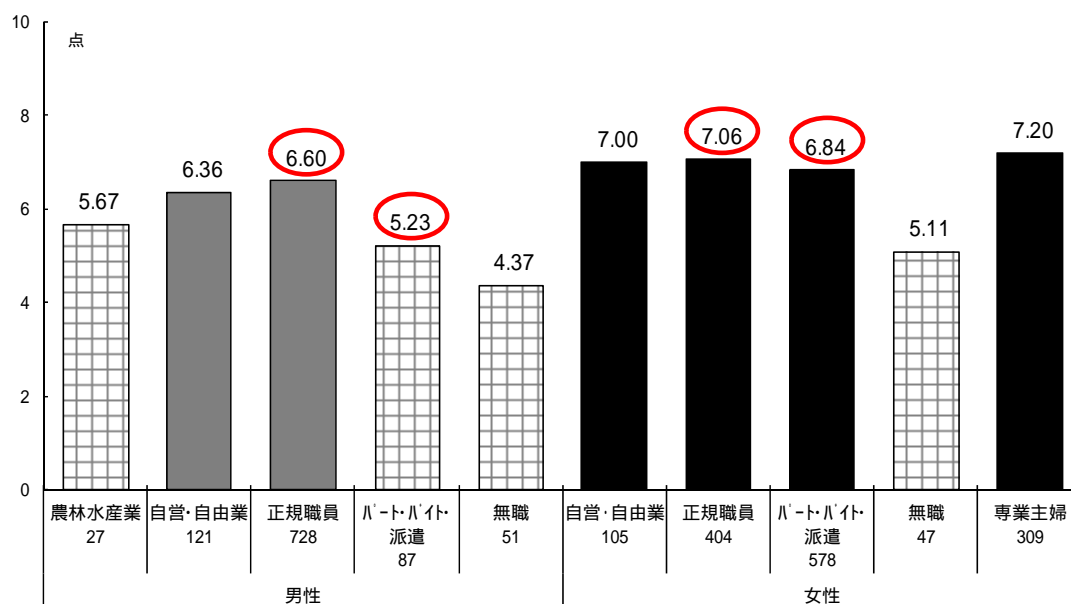
さらに、有業を職業別に区分して見ると、専業主婦を除くと男女とも正規職員の幸福度が高い傾向にあり、男女別に見ると、女性と異なり、男性のパート・アルバイト・派遣社員などの幸福度が低くなっています(図表1-3-9)

図表1-3-8 20～59歳の幸福度(性・職業の有無別)



- (参考) 1 有業...農林水産業、自営業・自由業、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員など、その他の職業
 2 男性の専業主婦については、サンプル数が少ないため、省略している。

図表1-3-9 20～59歳の幸福度(性・職業別(詳細))



- (参考) 1 各属性欄の数字はサンプル数。
 2 男性の専業主婦及び女性の農林水産業については、サンプル数が少ないため、省略している。

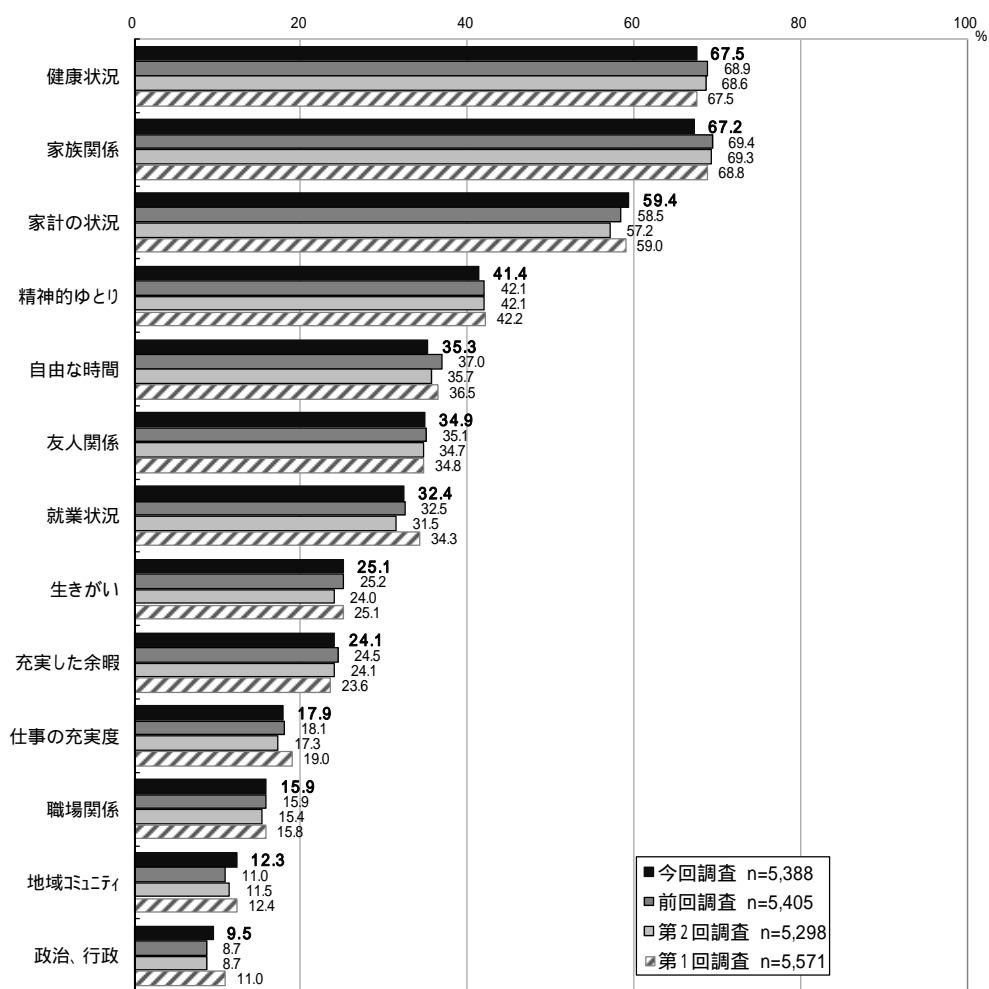
第4節 幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感との関係

1 幸福感を判断する際に重視した事項の県全体の状況

幸福感を判断する際に重視した事項は、「健康状況」が67.5%と最も高く、次いで「家族関係」(67.2%)、「家計の状況(所得・消費)」(59.4%)となっています。前回調査までの3回の調査では「家族関係」が最も高くなっていましたが、今回調査では「健康状況」が最も高くなりました。「健康状況」と「家族関係」を除くと、前回調査からの順位の変動はありません(図表1-4-1)。

なお、調査方法等が同一ではないので単純な比較はできませんが、国の直近の調査では上位3項目は県と同一ですが、「家計の状況」が「家族関係」よりも高い割合になっています(図表1-4-2)。

図表1-4-1 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)



図表1-4-2 参考とした国の調査

生活の質に関する調査(平成24年度～25年度)(実施主体:内閣府)
 質問「幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。」(複数回答)
 注)国の選択肢には「政治、行政」がありません。
 調査結果(各年度上位3項目)(平成24年度～平成25年度)
 ・平成25年度:健康状況(78.6%)、家計の状況(72.9%)、家族関係(70.2%)
 ・平成24年度:健康状況(70%)、家族関係(65%)、家計の状況(64%)

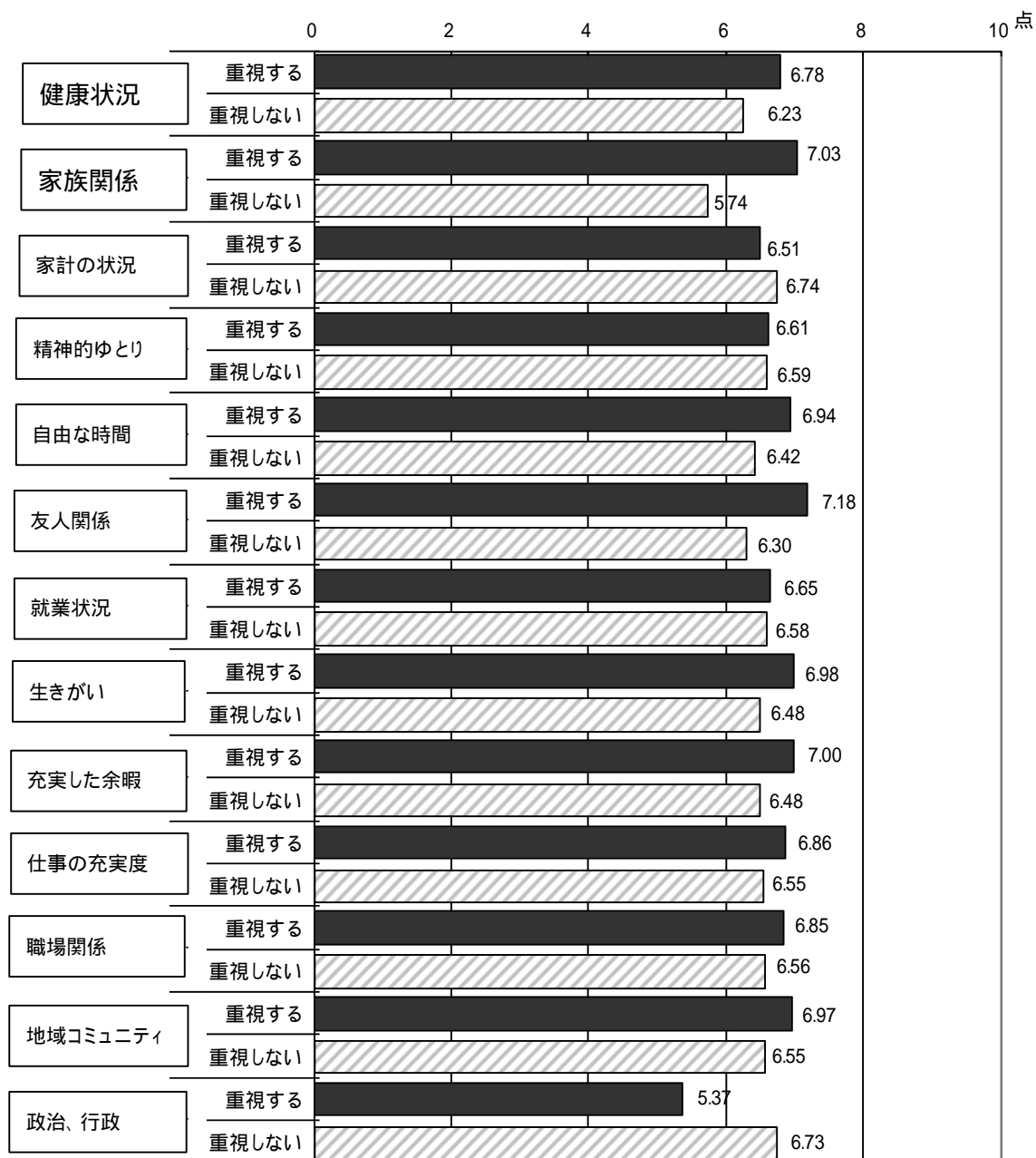
2 幸福度を判断する際に重視した事項と幸福度との関係

(1) 重視した事項別の幸福度の平均値

幸福度を判断する際に重視した事項について、その事項を選択した（重視する）人の幸福度の平均値と、選択しなかった（重視しない）人の幸福度を比較したところ、「家計の状況」及び「政治、行政」以外は、選択した（重視する）人の幸福度が選択しなかった（重視しない）人より高くなっています。最も差が大きいのは、「家族関係」で、選択した人が7.03点で、選択しなかった人（5.74点）より1.29点高くなっています。

また、選択した人の幸福度が最も低かったのは「政治、行政」で、選択した人（5.37点）が、選択しなかった人（6.73点）より1.36点低くなっています（図表1-4-3）。

図表1-4-3 幸福度を判断する際に重視した事項を選択した（重視する）人と選択しない（重視しない）人の幸福度の平均値

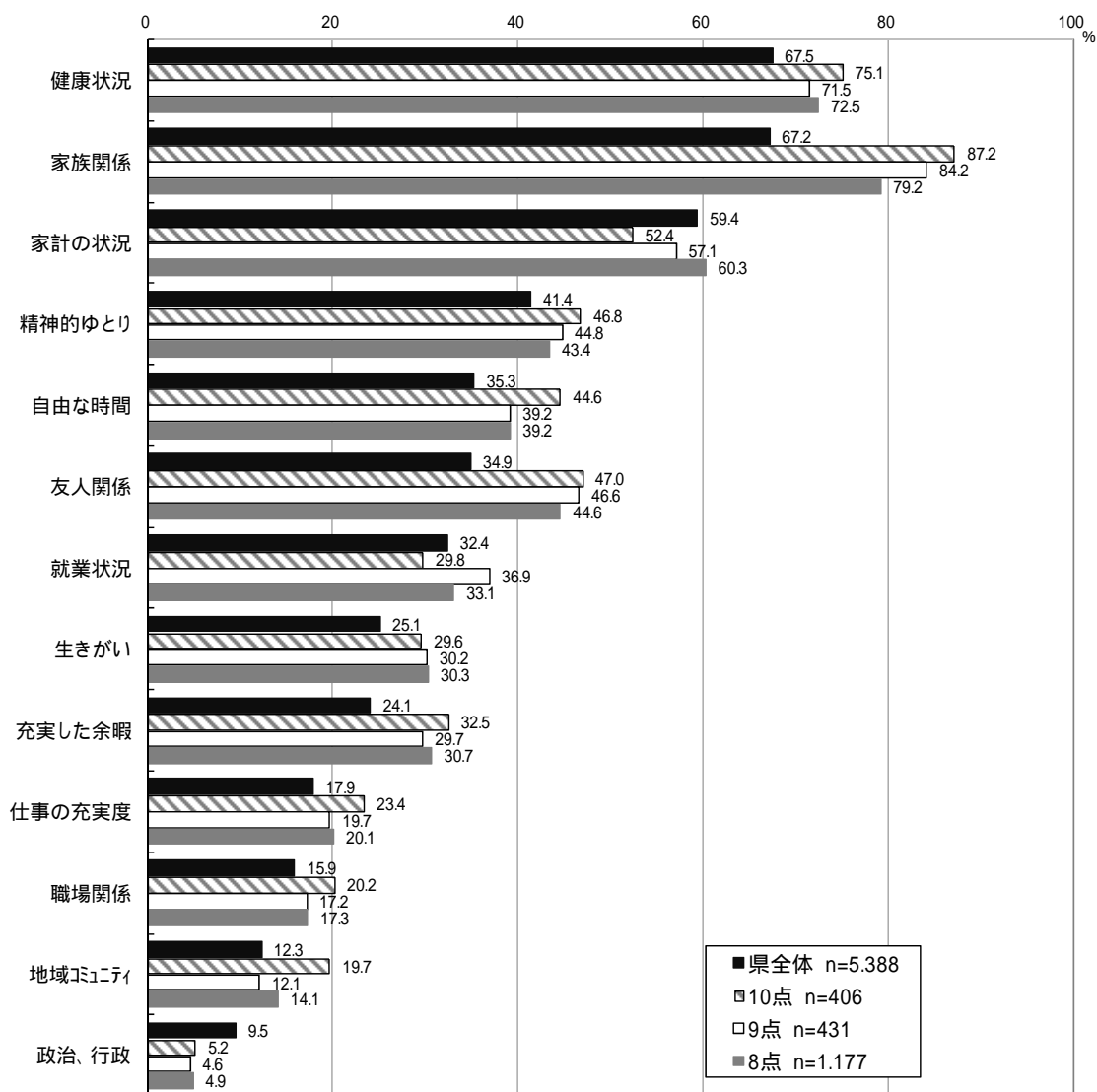


(2) 幸福度の高い層の重視した事項

幸福度の高い層（8～10点）の幸福度を判断する際に重視した事項の選択割合を見たところ、8～10点の全てで「家族関係」を選択した割合が最も高く、その割合も10点が87.2%で最も高く、次いで9点（84.2%）、8点（79.2%）の順になっています。また、8～10点の全てで「家族関係」に次いで、「健康状況」、「家計の状況」の順で高くなっています。「健康状況」、「家族関係」、「精神的ゆとり」、「自由な時間」、「友人関係」等の選択割合は8～10点の全てで県全体を上回っています。

一方、「政治、行政」の選択割合は8～10点の全てで最も低く、8～10点の全てで県全体を下回っています（図表1-4-4）。

図表1-4-4 幸福度の高い層（8～10点）の重視した事項の選択割合



第5節 幸福度を高める手立てと幸福度との関係

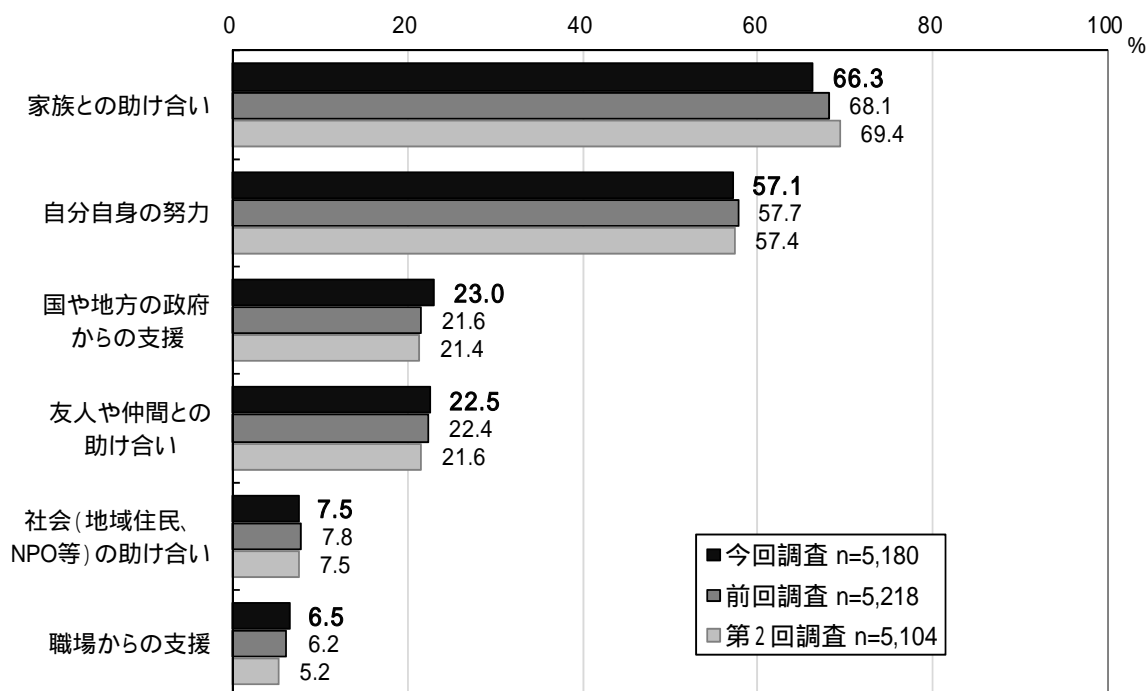
1 幸福度を高める手立ての県全体の状況

幸福度を高める手立てについては、「家族との助け合い」が66.3%と最も高く、次いで「自分自身の努力」(57.1%)、「国や地方の政府からの支援」(23.0%)の順となっています。

前回調査との比較では、「家族との助け合い」が1.8ポイント、「自分自身の努力」が0.6ポイントそれぞれ低くなった一方、「国や地方の政府からの支援」が1.4ポイント高くなり、順位も前回の4位から3位になっています。

「国や地方の政府からの支援」が「友人や仲間との助け合い」と入れ替わったことを除くと、前回調査及び第2回調査の順位から変動はありません(図表1-5-1)。

図表1-5-1 幸福度を高める手立て(2つまでの複数回答)

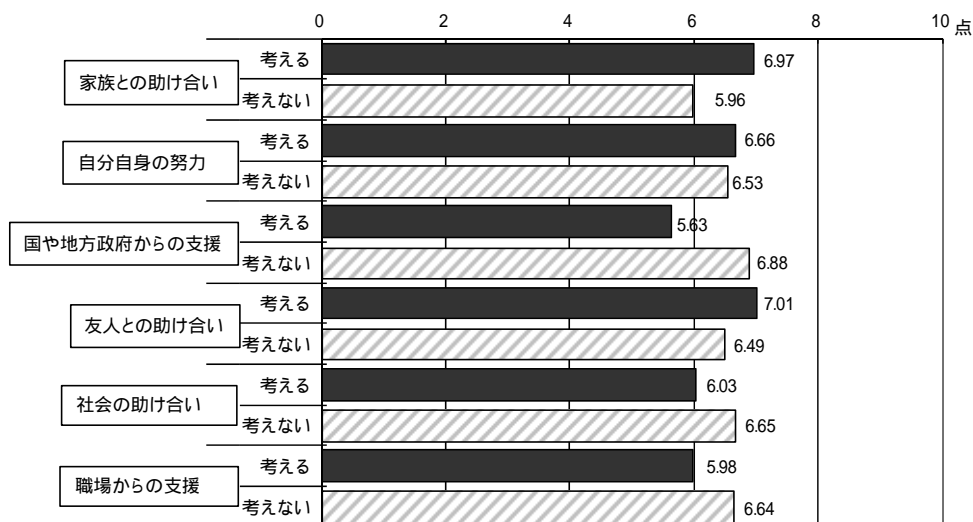


2 幸福度を高める手立てと幸福度との関係

(1) 幸福度を高める手立て別の幸福度の平均値

幸福度を高める有効な手立てについて、その事項を選択した（有効な手立てと考える）人の幸福度の平均値と、選択しなかった（考えない）人の幸福度を比較したところ、「家族との助け合い」、「自分自身の努力」、「友人との助け合い」については、有効な手立てと考える人の幸福度が考えない人よりも高く、「国や地方の政府からの支援」、「社会（地域住民、NPO等）の助け合い」、「職場からの支援」については、有効な手立てと考える人の幸福度が考えない人よりも高くなっています（図表1-5-2）

図表1-5-2 幸福度を高める有効な手立てと考える（選択した）人と考えない（選択しなかった）人の幸福度の平均値



(2) 幸福度の高い層の幸福度を高める手立て

幸福度の高い層（8～10点）の幸福度を高める手立ての選択割合を見たところ、8～10点の全てで「家族との助け合い」を選択した割合が最も高く、その割合も10点が80.0%で最も高く、次いで9点（76.1%）、8点（71.2%）の順になっています。また、「家族との助け合い」及び「友人や仲間との助け合い」の選択割合は8～10点の全てで県全体を上回っています。

一方、「自分自身の努力」、「国や地方の政府からの支援」、「社会（地域住民、NPO等）の助け合い」、「職場からの支援」の選択割合は8～10点の全てで県全体を下回っています（図表1-5-3）

図表1-5-3 幸福度の高い層（8～10点）の幸福度を高める手立ての選択割合

